

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570300602		
法人名	社会福祉法人 祐寿会		
事業所名	グループホームよしき		
所在地	山口県山口市吉敷佐畑4丁目5番24号		
自己評価作成日	平成30年12月26日	評価結果市町受理日	令和 1年 7月29日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成31年1月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

朝・昼・夕の食事を事業所内で作っており利用者もキャベツの千切りや玉ねぎの皮むき、米とぎなど出来る範囲で一緒に調理をしている。また、クッキングの日には1人一役できる事に参加して頂き食に対して楽しみなものになるように支援している。事業所の畑で作った野菜と一緒に収穫し料理に利用することで収穫の喜びにも繋げている。午前中は体操やスクワット、レクリエーション、気候の良い日は外気浴や散歩に行く等して気分転換をし下肢筋力の低下も防いでいる。午後は各自思いのままに、貼り絵や縫い物、しりとり、歌、トランプ、工作、脳トレなどをして過ごしていただいている。お茶会、オカリナ、銭太鼓、大正琴などのボランティアさんに来ていただいたり、法人のお祭りに地域の方やご家族にも来ていただき交流を深めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所では毎日の食事は利用者にとって、楽しみなものであると同時に力を発揮できる場であり、外出支援の場ともなり、熱意を持って取り組んでおられます。三度の食事づくりに加えて月8回の「お楽しみ食」は、利用者の食べたいものや親しんでこられた料理を献立にされ、食材の買物、調理、盛り付け、後片付けと一連の過程を利用者と職員と一緒に取り組まれています。食材の買物は外出の機会とされ、利用者と一緒に出かけておられます。親しんでこられた料理は利用者から伝授していただきながら一緒につくっておられます。盛り付けも楽しみながら取り組まれ、いつも完食の「お楽しみ食」です。「クッキングの日」は利用者一人一役を試みておやつづくりをされ、できあがったおやつは運営推進会議のお茶菓子に提供されることもあります。職員は、利用者の思いの把握をするためにセンター方式のシートを活用をされ、入浴時や喫茶時には、常に寄り添われ、利用者の表情やしぐさ、発した言葉、それに対する介護者のヒントやアイデアを「24時間シート」に丁寧に記録されて、思いの把握に努めておられます。その思いがかなえられるよう、「お楽しみ食」での役割や、クッキングの日の一人一役、洗濯番、壁画づくりなどにつなげておられます。壁画づくりの得意な利用者は「これは私の仕事」と言われるほど、自分らしく生き生きと取り組んでおられます。職員は利用者一人ひとりが、充実した喜びのある生活を送っていただけるように支援をしております。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検しうえて、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員は、活き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホーム独自の理念を作成し意識して業務に取り組めるようにホールに大きく掲示して職員間で共有しながらチームケアとして実践していけるように心掛けている。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念をつくり、事業所内に掲示して、常に職員の目に留まるようにしている。月1回のグループホーム会議やケアカンファレンス、ケア場面等に於いて理念に添ったケアになっているかを話し合い、共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の福祉委員さんが定期的に来苑されお茶会や季節の行事に参加されたり一緒に作品作りや歌、ゲーム等をして交流を深めている。地域の小学生やボランティアさんにも来ていただいて交流している。買い物に地域のお店を利用している。	法人が自治会に加入し、周辺の溝掃除や夏祭りには職員が参加している。法人の広場で開催している「悠々カフェテラス」や秋祭りには、法人他施設の利用者や地域から大勢の参加があり、利用者も参加して交流している。民生委員や福祉員の協力を得て開催している事業所主催のお茶会(3月から11月まで9回)には、地域の人や法人他施設から参加があり、利用者は抹茶を点てたり、菓子を運び、歌やものづくり、ゲーム等で交流している。ボランティア(オカリナ、大正琴、踊り、銭太鼓、お手玉、腹話術)の来訪や、法人の保育所の子ども達と交流している。事業所周辺の散歩時には法人の他施設の利用者と挨拶を交わし、コンビニエンスストアで買物時には近所の人と日常的に挨拶を交わしている。小学生の職場体験や短期大学、専門学校、高校の福祉実習の受け入れをしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議やお茶会、ドライブ等で地域の方に参加いただいた折に話をしたり実際に認知症の方と係ることで理解や支援の方法を学んでいただいている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	各自項目を理解した上で自己評価の実践状況を記入している。項目を理解する事で支援内容の取り組みを振り返り改善策を話し合っている。	計画作成担当者(主任)が職員に評価の意義を説明し、白紙の自己評価書類に全職員が各々記録した後、管理者と主任が2人でまとめている。職員は自己評価を日々のケアの振り返りと捉えている。前回の外部評価結果を受けて、目標達成計画を立て、毎月、応急手当の方法を身につけるため、課題に添った勉強会の実施や災害時における地域との連絡網ができるなど、具体的な改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では利用者の変化やサービスの実態、評価への取り組み状況等の報告をし地域の方、ご家族、市の担当者に情報を頂いたり意見を交換し問題点を話し合いサービスの向上に活かしている。	会議は年6回開催し、利用者の状況や行事予定、活動状況、外部評価結果を報告の後、「身体拘束適正化のための指針」を基に、事業所での取り組みについて話し合いをしている。参加者からは地域行事やボランティアの紹介、「介護のお手伝い」の必要性があれば協力したいとの意見があり、協力時間帯と内容を検討しているなど、サービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者に運営推進会議に出席して頂き、事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝え問題点などは適切なアドバイスを頂いている。	市担当者とは、運営推進会議参加時や電話で、情報交換や申請内容と手続きについて相談し助言を得るなど、協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、法人施設来訪時に、情報交換を行い連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	グループホーム内の勉強会や、苑内研修、外部研修などで学び理解を深め身体拘束をしないケアに努めている。スピーチロックにも気をつけながら抑圧感のない暮らしができる様に気をつけている。	職員は、法人の身体拘束委員会が主催する研修や外部研修の報告、勉強会で学び、身体拘束の内容や弊害について正しく理解している。スピーチロックについて、気になる場合は職員間で注意し合っている。玄関には施錠をしないで、外出したい利用者があれば職員が一緒に出かけているなど、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	苑内の研修に参加して虐待防止について学んでいる。部署内でも勉強会で虐待の実態について話し合い虐待のないケアに取り組んでいる。内出血等発見時はその日の日勤者で原因を探り不適切なケアがなかったか話し合い共有している。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	部署内の勉強会で成年後見制度について学んでいる。今は必要とされている方はいないがいつ必要とされる方が出てもいいように学び知識を深めるように努めている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は契約書、重要事項説明書、グループホームでの生活上の細かい説明も行い理解や納得をしていただきご契約をいただいている。退所時はご家族に十分な説明を話し合い納得をいただいている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からは日常生活の中で思いや意見を聞き出せるような雰囲気作りに努めている。ご家族からはモニタリング時、推進会議、敬老会後の座談会にて意見を出していただきケアの見直しや向上に努めている。ご意見箱も設置している。	相談や苦情の受付体制、第三者委員を明示し、処理手続きを定めて、契約時に家族に説明をしている。面会時や運営推進会議参加時、行事(花見や秋祭り)参加時、敬老会時の他、手紙や電話等で家族からの意見を聞いている。意見箱を設置している。意見はモニタリングシートや介護記録に記録して職員間で共有している。個別ケアに関する相談についてはその都度対応している。ドライブや外出支援についての要望があり、運営に反映させている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム会議他にて運営に関する相談等を聞いている。予算・事業計画のヒアリングを行っている。	管理者(施設長)や主任は、月1回のグループホーム会議やカンファレンス、委員会活動(身体拘束、褥瘡対策、衛生、環境整備、給食、事故対策)、係り業務(新聞、行事、レクリエーション等)の中で職員の意見や提案を聞いている他、日頃から気づいたことを「グループホームノート」に記録してもらい、議題として取り上げている。利用者に好きな餅を食べてもらう工夫や利用者の状態に合わせた湯船に浸かる工夫、食事の場所を利用者の状態に合わせて動かせる小テーブルの購入、勤務変更等の提案を反映している。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働法及び内部規定に基づいて行っている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外研修他で行っている。	外部研修は、職員の希望や段階に応じて、勤務の一環として参加の機会を提供している。受講後は復命書を提出し、内部研修(勉強会)で伝達をして職員間で共有している。外部研修は年間5人が参加(口腔ケアと他職種連携の必要性、高齢者虐待防止と権利擁護、感染症対策等)している。法人研修は、各委員会(身体拘束、褥瘡対策、衛生、環境整備、給食、事故対策)が年1回から2回開催し、参加できる職員は全員参加している。内部研修(勉強会)は、年間計画を立て毎月1回、主任や栄養士が講師となって、虐待防止やプライバシーの確保、認知症について、介護技術、薬の副作用について実施している他、月1回、看護師による急変時の対応(連絡方法、心停止、下痢、脳出血、外傷、骨折、捻挫、発熱、誤嚥、腸閉塞)について学び、実践力が身につくように取り組んでいる。新人職員は法人で1日間の研修終了後、日々の業務を通して先輩職員から介護の知識や技術を働きながら学べるように支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修への出席で行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを開始する段階でご本人より不安なことや困っている事、要望などお聞きし、ご家族からは、今までの生活の情報をお聞きしながら安心して生活していただけるような関係づくりに努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを開始する段階で御家族の困っている事不安なこと要望をお聞きし安心して利用していただけるように努めている。また、相談しやすい雰囲気作りにも努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを開始する段階で本人や家族の話を十分に聞き今一番必要としている支援をスタッフ間で話し合いケアプランにあげサービスにつなげている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できることはご本人にして頂き、出来ない所を支援することにより暮らしを共にする者同士支え合う関係を築いている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診や買い物、外食、機能訓練等出来る範囲でご家族に協力して頂いている。また、定期的な面会やお盆、お正月の外泊、今まで大切にされてきた習慣などで、家族とのふれあいや関係性を築いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅にいた頃の近所の友人が訪ねてきたり、教え子や馴染みの方から手紙や年賀状がきたり手紙を出したりしている方もいる。また、馴染みの美容院やお寺、お墓参りにご家族と行かれている人もいる。	家族の面会や親戚の人、友人、近所の人の来訪がある他、電話や手紙での交流を支援している。事業所では利用者の自宅付近をドライブしたり、思い出の場所に出かける支援をしている。家族の協力を得て馴染みの美容院の利用や馴染みの商店での買物、寺参り、法事に参加、墓参、外出、外食、一時帰宅、外泊等、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者同士を同じ席にしたり、レクリエーション時にその時したいレクリエーションに参加できる様にメンバーを調整して楽しく参加出来る様に支援している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後同じ法人内に行かれた方に対しては様子を伺ったり会いに行ったりしている。また、ご家族にお会いした際には様子をお聞きしたりしたい。ご相談があればその都度対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	3ヶ月に1度のモニタリング時や日々の会話の中で希望や意向を聞いている。スタッフ間の情報も参考にしカンファレンスで話し合い本人本位のプランを作成している。	入居前には、前入所施設の訪問や本人、家族からモニタリングカンファレンスシートやセンター方式のシートを活用して、生活史や暮らし方を聞き取り、思いの把握に努めている。入居後は日々の関わりの中で利用者に関わり添い、利用者の表情や発した言葉、しぐさ、それに対する職員のヒントやアイデアを24時間シート(介護記録)に記録して思いの把握に努めている。困難な場合は職員間で話し合っ本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常生活の会話の中で、今までの生活の情報を得たり、ご家族から話を聞いてこれまでの暮らしを把握しサービスに活かしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間シートを用いて1日の過ごし方、心身状態やその日に行った行動を把握しスタッフ間で共有し現況の把握に努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1度ケアプランの見直しをし、家族の意見も聞き健康面においては医師の意見も聞き、グループホーム会議にてスタッフ間で話し合い意見やアイデアを次のケアプランに取り入れ現状にあったケアプランを作成している。	利用者を担当している職員と計画作成担当者が中心になって、カンファレンスを3ヶ月に1回実施し、本人の思いや家族の意向、医師、看護師の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。24時間シートに利用者の状況や支援内容を記録し、目標に添った支援になっているかを毎日確認している。3ヶ月毎にモニタリングを実施し、計画の見直しをしている。利用者の状態や家族の要望に変化があればその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間シートを毎日記録しケアプランやケア項目をチェックすることで実践の結果や気づき、工夫など情報の共有をしケアプランの見直しに活かしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診や散髪支援や介護用品の購入など本人や御家族の状況その時に生まれるニーズに対し事業所に対応できることは対応し柔軟な支援をしている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の小学生との交流や、お茶会で地域の方を接待したり一緒にお花見やもみじ狩りに出掛けて交流を深めている。地域のお店に買い物にも行っている。地域のボランティアさんの来苑も楽しみにされている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族の要望を大切にし、事業所で受診する方、家族の要望で希望のかかりつけ医に受診する方もおられ、事業所で受診した場合は結果をご家族に報告し、ご家族で受診された場合はその結果をお聞きすることで連携を図り本人を支援している。	本人や家族が希望している医療機関をかかりつけ医としている。協力医療機関がかかりつけ医の場合は、月1回、受診支援をしている。その他の医療機関や他科受診は家族の協力を得て支援している。結果は「24時間シート」や「連絡ノート」に記録して職員間で共有し、家族には電話で報告している。歯科は2カ月に1回、歯科医と歯科衛生士の来訪による口腔管理をしている。利用者の健康管理は事業所の看護師が行い、緊急時や夜間、休日は協力医療機関と連携して利用者が適切な医療受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活の中で気になる症状や気付きがあれば事業所内の看護師に報告し適切な治療が受けられるように支援している。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は安心して治療できる様に情報を家族の了承を得て提供している。また、退院時には現状の把握をする為に様子を見に行ったり聞くことで情報交換や相談をし病院関係者との関係作りをしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化下場合は早い段階から機能評価表を用いてスタッフ間で話し合いご家族や医療関係者とも話し合い、事業所で出来ること、出来ないことをご家族に説明し方針を共有し本人がより良く生活できるように支援している。	重度化した場合に事業所でできる対応について、契約時に家族に説明をしている。実際に重度化した場合には、目安になる「日常生活機能トリアージ」を使用して早い段階から家族と話し合い、家族の希望に添って法人関連施設や他施設、医療機関への移設も含めて方針を決めて共有し、支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	ヒヤリハット報告をし再発防止策を話し合い事故を未然に防ぐ努力をしている。また、事業所内の勉強会や苑内外の研修で緊急時の対応を身に付け実践できるように努めている。	事例が生じた場合は、ヒヤリハット記録や事故報告書に、その日勤務の職員全員で話し合い、対応や原因、再発防止策等を記録して回覧している。主任は考察を記録して事故対策委員会に報告し、グループホーム会議で再度話し合い、利用者一人ひとりの事故防止取り組んでいる。看護師を講師に毎月、テーマ（連絡方法、心停止、下痢、嘔吐、脳出血、外傷、骨折、捻挫、誤嚥、発熱、腸閉塞等）を決めて勉強会を実施している他、法人研修で嘔吐物処理セットの使い方や食中毒予防を学んでいるが、全職員が実践力を身につけているとは言えない。	・全ての職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけるための定期的訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回の災害訓練を実施している。地域の方にも連絡網に入っていただき連絡体制を築いている。ご都合のつく限り参加していただいている。	年3回、防火管理者を中心に法人施設合同で（昼夜の火災想定2回、昼夜地震、風水害想定1回）、利用者、運営推進会議メンバー、地域住民も参加して、通報訓練、避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方を実施している。訓練は特別養護老人ホーム、ケアハウス、グループホーム、それぞれの場所で時間を変えて行い、地域の人には安全な見守りをお願いしている。地域の協力者の施設内見学を実施し、地域との連絡網を作成しているなど、災害時の地域との協力体制を築いている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの人格を尊重し友達言葉など使わず誇りやプライバシーを損ねないような言葉掛けをする様に努めている。また、苑内・外の研修に参加して意識を高めている。	職員は内部研修(プライバシーの確保)や法人研修(権利擁護)で学んでいる他、接遇目標5項目(挨拶、身だしなみ、環境、表情、態度)を事業所内に掲示して確認している。管理者や主任による日頃の指導「友達言葉や命令口調をしない」を通して、職員は利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。。個人情報の取り扱いに留意し守秘義務は遵守している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中で本人の思いや希望を引き出したり表情から読み取っている。また、ご自信で自己決定できるような状況を作るように努めている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調を考えた上で本人の意思をなるべく尊重し、その方に合った1日を過ごしていただけるようにできる範囲で支援している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で日常着が選べる方はご自信で選んでいただき身だしなみの不十分な方はその都度整えている。行事や外出時はお化粧をしたりおしゃれな服装をして頂くなど支援をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の献立の中で利用者にもキャベツの千切り、米とぎ、お茶入れなどできることをしていただいている。食後のテーブル拭きやコップの下膳なども出来る範囲でしていただいている。	食事は法人が一括購入した食材や事業所の畑で取れた旬の野菜(玉ねぎ、トマト、キャベツ、キュウリ、ピーマン、ネギ、紫蘇、オクラ、西瓜、さつまいも)を使って、三食とも事業所で利用者と職員と一緒に食事づくりをしている。法人栄養士の献立を基本として、利用者が食べやすいように形態や食器の工夫をして提供している。月8回の「お楽しみ食」では利用者の食べたいものを献立にし、買物から調理、盛り付け、後片付けなどを利用者と職員と一緒にしている。月1回の「クッキングの日」では利用者一人一役を試みたおやつづくりをし、手づくりのおやつ(クッキー)を運営推進会議に提供している。食事づくりは食べる楽しみであると同時に、利用者の力を発揮できる場(利用者の親しみのある料理を教える、できることに取り組むなど)であり、外出支援の機会として取り組んでいる。利用者は買物、野菜の下ごしらえ(キャベツを洗う、玉ねぎの皮を剥く)、米研ぎ、電気釜のスイッチを入れる、混ぜる、焼く、盛り付け、お茶を入れる、テーブル拭き、食器を洗うなど、できることを職員と一緒にしている。利用者と職員は同じテーブルについて、趣味や子どもの話をしながら同じものを食べている。おやつづくり(バナナケーキ、ぜんざい、ケーキづくり、フルーツポンチ)や苑庭での喫茶、昼食等の戸外食、好みのケーキのつく誕生日食、毎月1回の赤飯や刺身、季節行事食(おせち料理、節句の恵方巻、土用の鰻、ソーメン流し、年越し蕎麦、雑煮)、保存食づくり(梅干し、紫蘇ジュース)、家族との外食等、食事が楽しみなものになるように支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士がたてた献立により栄養バランスのよい食事を提供している。1人ひとりに合った食事形態や食器の工夫もしている。また、好みの飲み物やゼリーなど提供し水分不足にならない様に支援している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後緑茶での口ゆすぎ、義歯洗浄、ご自身の歯が残っておられる方には歯磨きの、声掛けや見守りをしている。必要に応じて介助もしている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	行動記録に記録し排泄パターンを把握しながら食事前にトイレの声掛けをしたり、本人がトイレに行きたい時は行けるように支援している。	24時間シートを活用して、排泄パターンを把握し、羞恥心や不安に配慮した言葉かけや対応をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響をカンファレンスなどで話し合い食事や水分の工夫、運動の働きかけをし便秘の予防に努めている。また、排便チェック表に記録し緩下剤服用など、排便の調整もしている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	その日の体調に合わせて入浴できるように支援しているが一人ひとりの希望やタイミングに合わせての入浴とまではいっていない。入浴時はリラックスしていただけるように入浴剤を入れたり会話してコミュニケーションをとっている。	入浴は毎日、13時30分から15時までの間可能で、週3回は入浴できるように支援している。順番や湯加減、入浴剤の利用、季節の柚子湯等、利用者の希望に添って、おしゃべりをしながらゆったりと入浴できるように支援している。入浴したくない人には時間を変えたり言葉かけの工夫をして対応している。利用者の状態に合わせて、清拭や足浴、部分浴、入浴しない日には顔と足の清拭を行っているなど、個々に応じた入浴の支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりの希望や体調、体力に合わせて自由に自室で休んでいただいている。夜間は安心して気持ちよく眠れるように温度調整をしたり清潔に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬表を作成し1人ひとりの服薬状況が把握できるようにしている。また、症状に変化があった場合はすぐに看護師に相談し主治医に伝えるなど医療と連携を図っている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日貼り絵をされている方や調理、縫い物、洗濯干し、洗濯たたみなどできる方にはしていただき活躍できる場や楽しみごとの支援をしている。気候の良い時は外気浴や散歩にも出掛けている。	掃除(掃く、拭く、玄関の掃除)、洗濯物の当番(干す、たたむ)、洗濯物の収納、カーテンの開閉、花を生ける、花瓶の水をかえる、お茶会、訪問客へのお茶出し、月8回のお楽しみ食、月1回のクッキング、食事の準備、調理、後片付け、食事の号令、苑庭での喫茶、プランターの水やり、畑仕事(じゃが芋の苗植え、収穫)、雑巾を縫う、繕いもの、ズボンのゴムの入れ替え、テレビ鑑賞、本や新聞、雑誌を読む、写真集を見る、短歌をつくる、日記をつける、折り紙、ぬり絵、切り絵、貼り絵、習字、歌を歌う、いろはかるた、トランプ、壁画づくり(切る、貼る、丸める)、カレンダーづくり、釣りゲーム、サイコロゲーム、ふーせんバレー、ボール遊び、口腔体操、リハビリ体操、ラジオ体操、脳トレ(しりとり、四文字熟語、計算、漢字)、季節行事(門松づくり、しめ縄づくり、グループホーム神社での初詣、お笑い溝、雛祭り、七夕、夏祭り、お月見、敬老会、秋祭り、ミニ運動会、クリスマス会、餅つき)、ボランティアの来訪、家族との外出、外食等、利用者が気分転換を図り、張り合いや喜びのある日々が過ごせるように工夫をしている。壁画づくりを得意分野としている利用者は、「これは私の仕事」として取り組み、本人の生きがいとなっている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望によって戸外に出掛けることは出来ないが、日常会話の中から行きたいところを聞いてドライブで出掛けたり、ご家族に伝えたりし希望のところに掛けるように支援している。	周辺の散歩や苑庭での喫茶、日向ぼっこ、地元の商店に食材の買物に出かける、季節の花見(つつじ、紫陽花、紅葉)、ドライブ(自宅付近、山口県庁、玄済寺、市内巡り、スポーツ村、維新公園、榎野川)に出かけている他、家族の協力を得て、馴染みの美容院の利用や法事への参加、墓参、外出や買物、外食等、一人ひとりの希望に合わせて出かけられるようにしている。職員は入浴時や午後のお茶の時間には利用者の傍らに寄り添い、行きたい場所を言ってもらえるように働きかけ、家族や地域の人と協力をしながら、戸外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金の持ち込みはお断りしているが安心のために少額のお金を持ってもらえる方もいる。買い物の際は事業所のお金を支払っていただくこともある。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話をおつなぎしたり手紙を出される方に対しては一緒にポストまで行ったりスタッフが投函の支援をしている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下に作品を飾ったり季節の花を生けたり中央の花壇には季節の花を植え居心地良く楽しいものになるように工夫している。また、食事時にはゆったりと食事ができる様に音楽をかけたりテーブルの位置にも工夫し安全に居心地良く過ごせるように支援している。	玄関から続くホールは、中庭から自然光が差し込み明るい。中庭のプランターには季節の花が植えてあり、季節を感じることができる。室内には季節の花を飾り、大きなソファやテーブル、椅子をゆったりと配置してある。キッチン、ホールの中央奥にあり、食事をつくる音や匂いがして、生活感を感じることができる。壁面には、利用者の母の日に撮った写真や利用者の共同作品(赤富士、猪のモザイク画)、書初めなどを飾り、洗濯当番表や理念、接遇目標5項目等が掲示してある。室内のエアコンの風が利用者に直接当たらないように配慮し、温度や湿度、換気に留意して居心地よく過ごせるような工夫をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った者同士がトランプなどのレクリエーションをしたり会話ができるように支援している。共用スペースは広く1つなのでひとりになれることは難しい。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に馴染みの家具や仏壇、写真など本人の使い慣れたものや大切にしているものを持ち込んで安心して過ごしていただいている。部屋でテレビを見ておられる方もいる。	居室の入口にはグループホーム神社のおみくじが貼ってある。箆笥やベッド、テーブル、机、椅子、仏壇、時計、テレビ、衣装掛け、ぬいぐるみなど、使い慣れたものや好みのものを持ち込み、家族写真やカレンダー、白寿の感謝状、得意なモザイク画を飾って本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや部屋がわからない方に対しては部屋の前に印やお名前を分かりやすく貼ったり手すりにテープを貼って迷われないように工夫している。廊下、トイレ、浴室など手すりを設置したり浴室は滑らないように滑り止めマットを敷き安全な環境作りをしている。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームよしき

作成日: 令和 元 年 7 月 25 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	全ての職員が急変時や事故発生時の応急手当や初期対応を身につけているとは言えない。	全ての職員が急変時や事故発生時の対応を身につける。	・勉強会で夜間・日中の想定をして、一人ずつ緊急時の対応を実践していく。 ・状況に応じたマニュアル作りをする。	8月～1月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。